

# 利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所  
発行人 真庭 拓郎  
〒378-0031 沼田市薄根町 4412 番地  
TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180  
E-mail : tonekyou@pref.gunma.jp  
URL:<http://www.pref.gunma.jp/kvoi/23tone/index.htm>

## 学校教育グループ

### ◆◆◆◆◆ 「2学期の重点」の取組状況 ◆◆◆◆◆

「利根・沼田の教育」第5号(8/25付)で、「2学期の重点」を示しました。学校訪問Bにおいては、重点を踏まえ工夫した授業を参観させていただきました。管内の取組状況等の概要は以下のとおりです。

#### 習得と探究を意図した単元の指導計画づくりとメリハリのある授業づくり

4観点の評価項目をバランスよく位置付けた単元の指導計画が多くなってきています。2時間単位の授業を計画し後半の1時間は交流に重点を置いたり、1単元を2教材で構成し、単元の前半は習得、後半は探究を重視したりするなど、身に付けさせたい力を明確にした指導計画を作成している学校が見られました。

今後に向けて、基本的な知識や技能の習得を重視した学習や、思考力、判断力、表現力の育成を重視した探究的な学習などを組合せ、バランスとメリハリのある授業づくりを工夫する必要があります。

#### 「ねらい」、「学習活動」、「評価項目」の関連の重視

「ねらい」、「学習活動」、「評価項目」の関連をおさえた授業が多くなりました。校内の指導案検討会で、「ねらいを達成した姿としての評価項目」、「ねらいを達成するための学習活動」などの観点から関連を吟味した学校がありました。

今後に向けて、児童生徒全員を「おおむね満足できる状況」にするために、適切な学習課題や効果的な学習過程の設定等、学習活動に着目して単元や一単位時間の指導を工夫する必要があります。



#### 予想される児童生徒の姿の想定と支援の事前準備

多くの授業で、中心となる学習活動において、予想される児童生徒の姿と支援が準備されています。体育で、授業者が事前に準備した支援を生かし、つまづいている児童に対してモデルとなる動きをしている児童に注目するよう働きかけ、多くの児童が一度に「おおむね満足できる状況」になった授業がありました。

今後に向けて、「努力を要する状況」にある児童生徒それぞれのつまづきを予想し、それに対する支援を複数準備するなどの工夫が必要です。

#### 児童生徒の交流における意見交換の観点の明確化

児童生徒の交流の場面を意図的に設定したり、考えの根拠を話し合わせたりする授業が増えてきました。児童生徒相互の意見交換の観点を明確にするために、全教員で模擬授業をした学校がありました。

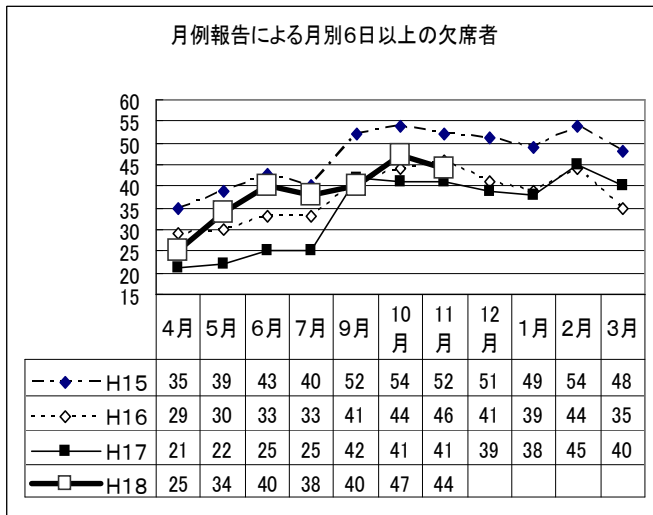
今後に向けて、交流は指導方法・手段であることを踏まえ、交流の必要性や目的、期待される学習の深まりや広がりをおさえ、それを実現するための意見交換の方法や内容を工夫する必要があります。また、単元のどの時間に交流の場面を設定するのが効果的であるかなど、単元レベルで構想する必要があります。

#### 授業の実質的な改善に資する授業研究会の内容・方法の工夫

付箋紙を活用し参観者の気付きを出し合ったり、「教師の支援」、「評価項目に照らした子どもの変容」など、視点を絞って話し合ったりする授業研究会が増えてきました。前時に児童が記入したプリントのコピーを事前に教員に配付し、自分ならどんな支援をするかをあらかじめ構想したうえで授業を参観したり、授業研究会で当日児童が記入したワークシートを教員に配付したりして、児童への具体的な指導の在り方について目的・効率的に意見交換をしている学校も見られました。

上記の重点は効果的と考えられる手段です。授業改善の目的は、一人一人の児童生徒に確かな学力を身に付けさせることです。目的と手段を踏まえ3学期以降の授業づくりの参考にさせていただきたいと思っております。

## ◆◆◆ 不登校の未然防止や状況改善に向けて ◆◆◆



### 【冬季休業日をはさんだ12月～2月の指導】

過去3年間の月6日以上欠席者の推移は、10月・11月にピークとなりその後一度減少しています。しかし、12月～2月にかけて再度増加する傾向があります。これは冬季の長期休業等による生活習慣の変化や学校とのつながりが希薄になることが原因の1つと考えられます。

本年度は、夏季休業中・休業後に具体的・組織的な指導・援助を実施していただき7月～9月の急激な増加を防ぐことができました。夏季休業中の各校の具体策として、「補充学習等の来校機会を利用した学校・友人・教師とのつながりの維持」「電話連絡や家庭訪問」「部活動担当と担任とによる部活動参加状況の共有や部活動単位で行う宿題等の学習(中学校)」などの工夫があります。12月～2月の冬季休業日をはさんだ3ヶ月間においても、具体的・組織的な指導・援助を計画・実施し、不登校の未然防止や状況改善を図ることが必要です。

然防止や状況改善を図ることが必要です。

『不登校0』を目指して取り組んでいただいておりますが、平成18年度は17年度と比して増加しています。相談室登校や短時間の登校等であっても、学校に来られたことがその子の自信となり改善のきっかけとなると考えます。学校としての指導方針のもと、一人一人の生活実態や抱えている背景等に十分配慮しながら、柔軟な指導・援助をお願いします。

## 生涯学習グループ

### 放課後の子どもたちの居場所づくり ～地域で子どもを見守り、育てる～



#### 昭和・東小学校 『東小こども教室』

〈地域子ども教室推進事業〉

「落ち葉を画用紙に、自由に貼ってもらおうよ。」

「子どもに任せてみるのが、大事だと思うよ。」

8名の指導員さん(地域の有志のボランティア)は、放課後、子どもたちがやってくる1時間も前から、居場所となる小学校の空き教室に集合し、活動の内容や方法について熱心に打合せを繰り返す。床には、先週子どもたちと校庭で拾い集めておいた、銀杏やもみじ、桜などの色づいた葉っぱや松ぼっくりなどがいっぱい置かれている。

『東小こども教室』は、国からの委託事業『地域子ども教室推進事業』を受け、毎週金曜日の放課後に、空き教室や校庭などで様々な活動を行っています。

指導員さんたちは、ボール遊びやなわとび、紙ひこうき飛ばしなど子どもたちの思いを受け止め、自由遊びを見守るという姿勢を大切に、教室を運営しています。

また、折々に“ごんべさんの赤ちゃん”などの歌遊びや紙ずもうなどの昔遊びを教えたり、身近な材料を使ってものづくりをしたりするなど、意図的に企画した体験活動や交流活動も行っています。

「こんにちは。今日は何するのかな。」授業が終わった低学年の子どもたちが、居場所となる教室へ次々と入ってきました。指導員さんに出席カードを渡し、名札をつけ、自分たちで拾ってきた落ち葉を思い思いに画用紙に貼っていく子どもたち。葉っぱ2枚をウサギの耳に・・・銀杏の葉を人の足に……。指導員さんは、子どもたちの思いに耳を傾けたり、ボンドの付け方を教えてやったりと、子どもたちをやさしく見守っていました。

#### 成果と今後に向けて

このような地域の大人の方々の協力を得て、放課後に安全で安心して過ごせる子どもたちの居場所を設けることにより、次のような成果が生み出されることが期待できます。

- ◆ 体験活動や大人との交流活動を行うことで、子どもたちの豊かな人間性や社会性を養うことができる。
- ◆ 地域全体で子どもを見守り、育てるといった機運を醸成することができる。

現在管内では、ボランティアの方々の協力による放課後の居場所づくりが、たいへん多く行われています。

来年度からは、新規事業である「放課後子ども教室推進事業」が、全国的に行われる予定です。事業を実施する小学校におかれましては、趣旨を御理解いただき、連携・協力くださいますようお願いいたします。

子どもたちの居場所づくりがより一層充実していくよう、当事務所としても支援に努めていきたいと思っております。